

# 令和4年度業務執行報告

[令和5年6月1日HP掲載]

## I、法人運営の概要

## II、事業執行の内容

- ・教育目標及び基本姿勢
- ・当該年度の事業概要
- ・事業の目的計画と実施
- ・実施計画の進捗状況等
- ・認定こども園事業
- ・職員研修（園内、園外）
- ・情報発信の状況

## III、学校評価について

- ・教職員自己評価結果の集約内容
- ・学校関係者評価の内容

## IV、財務状況の内容

学校法人内丸学園 幼保連携型認定こども園

盛岡幼稚園

# 令和4年度・事業報告書

## I 法人の概要

- 1、法人名： 学校法人内丸学園  
 2、理事長： 坂本 洋  
 3、住所： 岩手県盛岡市中央通1丁目6-47  
 電話：019-622-2301 Fax: 019-622-1819

### 4、設置する学校

- 名称： 幼保連携型認定こども園 盛岡幼稚園  
 認定こども園（認定月日：平成19年2月27日）  
 類型：・幼稚園型（当初は認可外保育施設併設）  
           ・幼保連携型（平成22年4月1日認定）変更  
           ・      〃      （平成27年4月1日新制度移行）

備考：22年度から0歳児～2歳児は保育所認可【定員21名】、23年度【定員30名】となる。平成27年4月1日から子ども・子育て支援新制度により、従来の幼稚園・保育園が単一施設となり、3号子ども定員30人から42人へ変更。幼稚園学校教育部分は4学級105人。内訳1号子ども定員45人、2号子ども60人へ変更。合計：147人。令和2年度から3歳以上児の定員変更：1号子ども30名。2号子ども75名とする。令和4年度も上記の定員変更のままで運営。

### 5、学級編成と定員並びに実績（認定こども園定員：147名）令和5年3月1日現

項	5歳児学級	4歳児学級	3歳児学級	計
定員	1学級	1学級	2学級	4学級
	35名	35名	35名	105名
令和4年度実績	1学級	1学級	2学級	4学級
	32名	31名	28名(満3歳0名)	91名
	保育【0歳～2歳 定員42名】0歳：9, 1歳：15, 2歳：18			42名

計：133名

### 6、認定こども園受入れ実績状況（認定こども園定員：147名）令和5年3月1日現

入園対象の認定	3～5歳児(満3含)	0～2歳児	計
1号	18名		18名
2号	73名		73名
3号		42名	42名
計	91名	42名	133名

## 7、法人役員・教職員の概要

理事 7名：理事長1名、理事長代行者1名、理事他5名

(理事長：坂本洋、理事長代行者：松本静毅、理事：坂本信行、荒木田一男、関 雅彦、中原真澄、黒澤淳子)

評議員 15名：寄附行為23条(1) 4名、23条(2) 3名、23条(3) 8名

開催内容：理事会6回、評議員会2回、監査会・外部2回、法人監事2回 計4回

理事会	① 5月28日、②7月14日、③9月30日、④12月22日、⑤1月28日 ⑥3月22日
評議員会	① 5月28日、②1月28日、
監査会	① 5月19日、②5月23日(法人)、③1月31日、④2月6日(法人)

学校関係者評価委員会：年1回(令和5年3月17日) 評価内容は別添のとおり。

苦情解決第三者委員会：年1回(令和5年3月17日) ”

教職員 35名：理事長1名、園長1名、主幹保育教諭1名、指導保育教諭1名、

保育教諭16名、保育教諭(非) 8名、保育助教諭(非) 1名

看護師(非)1名、栄養教諭1名、栄養士1名、調理師2名、調理員(非)1名

事務職員2名、 【年度中、産休・育休者2名】

## II 事業執行の概要

### 1、教育目標及び基本姿勢

#### (1) 教育目標

生命力にあふれる子ども達が、愛情と活力と創造に満ちた生活をめざし、幼児の心身の発達に応じた豊かな体験が得られるよう教育環境を整え、一人ひとりの心情・意欲・態度の発達を養い、基礎的人間性の土台となる、生きる力や心の教育の育成を目標とする。

また、東日本大震災による被害状況が、かつて経験したことのない甚大な被災となり、これまでの危機管理対応を根幹から見直すこととなり、かけがえのない子ども達一人ひとりの命の大切さを改めて教育の根底に据え、安心安全な環境づくりに努めること。

#### (2) めざす子ども像

園 訓： つねによるこぶべし (いつもにこにこ)

- 健康でたくましい子ども
- よく聞きわかり行動する子ども
- すなおに感じ豊かに表現する子ども
- 心身ともに安定した生活を送れる子ども
- 神と人ともに喜ばれる子ども

### (3) めざす教師の役割像

- 幼児一人ひとりが、より豊かに遊び、学ぶ生活を過ごせるよう援助する
- 集団生活の中で生きる力、喜びの広がりが育つ環境づくりに配慮する
- 自律と協同の育ちに配慮し、協同的な遊びや学びの環境構成を工夫する
- 総合的な教育と保育の一貫した幼児教育の保育計画づくりに配慮する

### (4) 教育目標達成のための基本姿勢

- 型にはめない自由な個性の伸長 (個性重視)
- 遊びの十分な保障と充実感 (満足感と承認充足)
- 感性や情緒性豊かな環境づくり (夢のある環境)
- 愛情に満ちた子どもとのかかわり (愛着心の育成)
- 善悪の判断基準の適切な指示 (社会行動規範の明示)

## 2、当該年度の事業概要

運営基本方針に基づき、教育目標の達成に努め個性豊かな教育を実現した。

特に改訂教育・保育要領に基く教育指導計画の実施は、本年も引き続き幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿を意識した実践に努め、0歳児から5歳児までの一体的全体指導計画を作成する中で園内・園外研修で培った内容を教職員全員での共通理解を深め実践に生かすことに努めた。

幼稚園創立115周年に当たる今年度は、園舎の外壁等修繕及び施設内の環境整備工事をを行い、記念式典を開催。前回の創立記念事業以降の約五年間の事業活動報告をまとめた記念誌も作成した。また運動会や観劇、保護者によるコンサート等も記念事業として実施し、子ども達と共にお祝いした。

コロナ禍3年目となり、日々の健康観察、保育室や遊具の消毒などを徹底しながら、感染予防に努めた。子ども達もマスクの着用や手指消毒、手洗いうがい等、基本的な生活習慣を行ってきた。その中でも園児が感染し、学級閉鎖の措置をとらざるを得ない時期もあったが、運動会や保護者参観、作品展示、クリスマス会等中止せず内容を工夫しながら実施した。保護者が参観できる機会を増やし、園の保育活動への理解につなげた。

なお、令和3年2月に岩手県庁内保育施設・うちまる保育園(小規模事業所内保育事業)開設に伴う連携施設としての覚書締結による交流があった。

#### ◎ (主な行事等)

**4月**：第115回入園式、始業式、**5月**：避難訓練、健康検診、タッピングの畑、ふたば会総会 **6月**：歯科検診、眼科検診、耳鼻科検診、内科検診、花の日礼拝、保育参観と懇談会 **7月**：薬剤師検査、七夕、プール遊び、お泊り会(内容の縮小)、**8月**：夏休み、**9月**：創立115周年記念運動会、歩き遠足 **10月**：創立115周年記念文化事業観劇、作品展示会 タッピングの畑芋ほり、**11月**：収穫感謝祭、焼き芋会、創立115周年記念式典及び祝賀会、トトロランド、小学校体験学習、**12月**：クリスマス礼拝、創立記念クリスマスコンサート 冬休み、**1月**：鮭の赤ちゃん飼育、**2月**：保育参観・懇談会、卒園を祝う会、**3月**：親子茶会、お別れ会、修業式、第115回卒業証書授与式、鮭の赤ちゃん放流会(各月の避難訓練を実施した。また創立115周年の節目で記念事業行事が多く開催された)

◎【1号認定・2号認定園児数状況】

3月末在籍：91、卒・退園児数：32、在籍園児数：59(A)

3月末入園申込み数：29、新入園児数：29(B)

次年度期首数(A+B)：88名

◎【3号認定園児数状況】

3月末在籍：42、卒・退園児数：18、在籍園児数：24(A)

3月末入園申込み数：15、新入園児数：15(B)

次年度期首数(A+B)：39名

◎ 幼保連携型認定こども園・盛岡幼稚園：次年度期首合計数：127名

### 3、事業の目的計画と実施

幼児教育の専門性資質向上及び幼児一人ひとりの育ちを保障する保育理念のもとに、ふさわしい教育環境をもって、幼児の心身の発達に応じた豊かな体験と感動に満ちた教育活動を計画立案し、加えて幼保一体化の認定こども園事業を積極的に取り入れた運営を実施した。また本年は、創立115周年の節目に当たり、創立時の建学の理念を振り返り記念事業として記念誌発行、並びに園舎内外の環境整備事業・改修工事(約5千万円)を実施し、園児と共に多くの記念行事を行い、コロナ禍で自粛しつつ記念式典・祝賀会を開催した。◎質の豊かな食育・給食提供のため、3号園児への自園給食調理機能の充実を基本とし、また1号、2号園児への完全給食提供のため給食調理室稼働の充実を図り、園児への食育指導の計画案を作成し実施した。

◎ また、個別的配慮を要する園児は保護者の要請により7名(精神発達遅滞1名、自閉症・多動2名、精神遅滞・自閉1名、精神遅滞境界域2名、自閉スペクトラム症1名)の受入れとなり、健常児の中で持てる能力の成長に留意し、個々の支援計画を作成し職員の共通理解を深め丁寧な関わりに努めた。また園内研修で特別支援の共有に努め合理的配慮を要する子ども指導を強化した。

◎ なお、教育課程外の預かり保育(家庭部保育)は、認定こども園事業実施の中で継続して実施している。詳細利用実績は下記記載5、の通り。

◎ 新制度移行の当園の経過は、認定こども園として、平成19年2月27日付けで岩手県第一号の認定。当初は幼稚園型であったが、平成22年4月からは、認可保育園として、0歳児を加え認可保育事業として実施した実績。子ども子育て支援新制度以降は、改めて幼保連携型認定こども園として、単一施設としての『盛岡幼稚園』を更に前進させている。

◎ 本年度の3号認定児の入園受け入れ実績は、令和4年4月初日在籍35名(0歳児：5名、1歳児：14名、2歳児：16名)と定員を下回る状況。新年を迎え令和5年3月には、在籍数42名(0歳児：9名、1歳児：15名、2歳児：18名)と定員(42名)在籍数で、特に0歳児は昨年同様に6名定員のところ9名在籍となった。これは入園許可認定を行う盛岡市福祉行政当局から待機児童解消のための要請によるものです。

### 4、事業実施計画の進捗状況等

計画された教育・保育活動は、継続するコロナ禍の中にも年度計画所期の目的を達し、個人の発達に応じた生きる力や心の教育の育成並びに保育養護の向上に貢献した。

特に教職員の自己点検意識が高まり、客観的に自らの指導計画や子どもに向き合う姿勢並びに教職員集団の力として、昨年に引き続き園内研修実施等発揮できる体制の確立となっている。

なお、東日本大震災以来、改めて危機管理対応の見直しを行い、また新型コロナウイルス感染予防のマニュアルの徹底等により 3 密回避による教育活動内容や、保護者参観等の見直しを図り、子ども主体優先の行事となるよう実施。このことは保護者へも伝え共通理解を深め、ご協力・情報の共有に努めている。

- ◎ 盛岡幼稚園 教育実施日数：年少クラス、年中クラス、年長クラス 40 週  
3 歳児 (194 日)、4 歳児 (194 日) 5 歳児 (197 日)
- ◎ 保育実施日数：・0 歳児～2 歳児 293 日 ・3 歳児～5 歳児 293 日

## 5、認定こども園保育事業（預かり保育）

### (1) 預かり保育推進事業の実績数

	満 3 歳児	3 歳	4 歳	5 歳	計
2 号認定利用児	0	24	24	25	73
1 号認定利用児	0	0	0	2	2

3 歳児から 5 歳児の月平均利用は 75 名（昨年 75 名）。その内 1 号認定児は 2 名。2 号認定児は 73 名で全員標準時間利用児であった。なお、臨時的利用児は、月平均 5 名の実績となった。

預かり保育の 1 号・2 号児の保育指導状況は、臨時的預かり保育利用児を含め、3 歳児、4 歳児、5 歳児各年齢児ごとグループに分けて各担当職員の掌握日課で実施した。

特に 5 歳年長児は 6 月以降の午後保育中の午睡を柔軟に取り入れた保育を行うこととし、幼小接続を意識したアプローチカリキュラムを考慮した教育・保育活動。また、早朝と延長保育は異年齢合同保育として行っている。

また、土曜日保育利用は殆ど 2 号児、年間利用実績数 203 人、月平均 17 人、週平均 4～5 人で異年齢合同の処遇としている。（3 号児の保育は、別室の別処遇である）

◎年間開設日数：保育日数は年長児クラス 195 日及び、土曜日：延べ利用数:203 名、月平均 17 名（昨年 228 名、月平均 19 名）、春・夏・冬休みの実施を入れ 293 日開設した。

◎ 子育て支援事業（トトロハウス）：週 1 回、年間開催回数 25 回、登録者延数：12 名年間 32 組の利用。一回平均参加者数 1.3 組（昨年 5 組）少ない利用。【親子参加、費用無料、前日までに申込み】 ※コロナ感染予防のため参加者受け入れを 5 組に制限した。

(2) 子育て相談事業：相談件数は 88 件、一般：0 件（昨年 3 件）、園児及び子育て支援事業参加者保護者：88 件と、昨年の総件数 81 件に対し微増した。

- ・相談内容：しつけ・育児が 47 件(53%)、排便排尿が 10 件(11%)、発達・障害 9 件(10%) 登園しぶり 4 件、トラブル・いじめ 2 件、その他 14 件（15%）等の内容であった。
- ・相談対応：継続観察 23 件(26%)、助言指導 65 件(74%)。面談相談が多く（9 割）助言指導が 6 割強を占め、継続観察ケースは、しっかりと見守り以後の報告を丁寧に実施した。

なお、本年は一般相談が皆無であったが、コロナ禍の影響で上記掲載の子育て支援事業への参加者受け入れを制限したことが、少ない原因とも考えられる。

## 6、令和4年度 職員研修実績

### (1) 園内研修実施報告

#### \* 研究テーマ

『言葉の育ちを意識した記録から、子どもの育ちにつなげる保育教諭の関わりを探る。』

日 程	内 容	記 録
4月22日(金) 14時～	・ 昨年の園内研修の振り返り ・ 今年度の研究テーマについて ・ ポートフォリオの確認、見直し	齊藤 (綾)
5月11日(水)	・ 園内外の危険箇所の確認、検討 ・ コロナ感染症対策の検討、見直し 【保健・安全係】	相原
6月14日(火)	・ 気になる子どもや、合理的配慮が必要な子どもについて ・ 個別支援計画について① 【特別支援・教育相談係】	中村 (美)
7月	・ 子どもと本～集団での読み聞かせ～ ・ コロナ禍での保護者への発信について * 園内でコロナ感染症が広がったため、自主研修とした	田口
9月12日(月)	・ 前月の意見集約を基に、保護者への発信について検討。 ・ 今年度の研修テーマについて共通理解する。	高橋
10月12日(水)	・ 年齢ごとに発達の姿や保育者の援助を検討する。 ・ 園長先生の講話「乳幼児のことばの育ちと関わり」	齊藤 (綾)
11月11日(金)	☆いわて幼児教育センター訪問支援事業 公開保育 講師：幼児教育専門員 佐藤みき子先生 遊びや活動における保育者の援助について助言を頂く。	竹岡
12月14日(水)	・ 今年度の研究テーマに沿った事例の検討。 Bクラス「お店やさんごっこ」	石田
1月20日(金)	・ 「幼保小架け橋プログラム」について (動画視聴) ・ 今年度の研究の振り返り	瀧山
2月22日(水)	・ 気になる子どもや、合理的配慮が必要な子どもについて 【特別支援・教育相談係】	齊藤 (由)
3月	・ まとめ ・ 次年度に向けて	研修担当

#### 【非常勤職員の研修】

- ① 6月21日(火) …合理的配慮を要する子について
- ② 12月7日(水) …言葉の育ちについて
- ③ 2月22日(水) …これからの幼児教育・保育の動向について

○この他にも職員間で話し合いの機会を設け、研修の機会とした。

- ・ 月案、週案の作成と検討
- ・ 学期毎の反省と評価
- ・ 活動や教材の理解と研究
- ・ 個別支援計画、個人記録、学級経営 など

※園外参加研修については、復命書の回覧にて全職員で共有。

## (2) 園外研修実施報告

◎特別支援に関する研修会    □保幼小連携に関する研修会    ○その他

日程	研修会（主催者）	研修内容
5.13	○幼児教育中核リーダー養成研修講座 I	・講義「幼児期の教育の今日的課題と本研修の意義」 ・保育参観・研究協議「保育の実際（岩大附属幼稚園）」
5.21	○岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会 第1回新任教諭研修会	・講演「幼児の発達に沿った保育内容」 ・講演「幼児教育と小学校教育の接続」等
5.31~ 6.1	○幼稚園等初任者研修講座 センター研修 I	・講義「初任者に望むこと」 ・講義と演習「特別な支援を必要とする子どもたち」等
6.2	○保育所・幼稚園・小学校交流研修会	・説明「岩手県幼児教育推進体制にかかる説明および盛岡市幼小接続プログラム・カリキュラムに係る説明」等
6.7	○第1回岩手県幼児教育推進連携会議 WG	・説明「本県の就学前教育復興について」 ・検討「『いわて就学前教育振興プログラム』の充実について」
6.11	○岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会 第4回新任教諭研修会	・講演「乳児の発達に応じた保育」 ・講演「子どもの食育と保育者の役割」等
6.16~17	◎総合教育センター研修講座（特別支援） 通常学級における特別支援教育の視点を生かした支援	・講演「子ども主体の授業づくり」 ・講演「子どもの発達と子に応じた支援」
6.18	○盛岡市私立保育園新任職員研修会	・講演「コロナ禍における新任保育者の心得とは」 ・グループワーク「保護者対応」等
6.21	○保育者レベルアップ研修講座ステップ I	・講義「幼児期に育みたい資質能力と『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』」 ・演習「幼児期における特別支援教育」等
6.24	○全日私幼連大29回東北地区幼稚園設置者・園長研修会	・基調講演「幼児期における良質な教育・保育推進の今後の行政課題」 ・分科会「私学助成園および新制度の運営加地の今後の改善対応」等
7.2	◎保育所協議会 特別事業班 教養講座	・講演「保育園で気になる子ども～子どもへの支援とその保護者との協働に向けて～」等
7.20~22	○幼稚園等中堅教諭等資質向上研修講座 (県総合教育センター)	・講義「幼稚園等中堅教諭に望むこと」 ・講義・演習「幼児理解と保育の構想～指導計画の作成と保育の展開～」等
7.20	○大新保育園 公開保育	公開保育「昔話であそぼ」
7.26	○第2回岩手県幼児教育推進連携会議 WG	・検討事案「いわて就学前教育振興プログラムについて」 「保育者育成指標の作成について」
7.29	○岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会 第1回教員研修会	・講演「一緒に保育のわくわくを探そう」 ・講演「発達の理解と援助」

7.29	□幼小の学びをつなぐ研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演「幼保小架け橋プログラムを踏まえたカリキュラムマネジメント」</li> <li>・説明「幼児教育と小学校教育をつなぐカリキュラムの作成」等</li> </ul>
8.17	○岩手県幼児教育研究協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演「保育者の専門性向上と働き方改革」</li> <li>・分科会「指導計画作成、保育の展開、指導過程の評価・改善」</li> </ul>
8.19	○第1回経営セミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演「組織マネジメントの理解について」</li> <li>・講演「職員の質向上について」等</li> </ul>
8.22	○盛岡市保育所協議会特別事業班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演「愛着形成と阻害から保育者が保護者支援からできること」</li> </ul>
9.6～9.8	○幼稚園等初任者研修講座センター研修Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義と演習「発達に応じた造形表現活動」</li> <li>・講義と演習「保育に生かす君セリングの基礎・基本」</li> </ul>
9.7	○ECEQ 公開保育（聖パウロ幼稚園）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開保育</li> <li>・学年ごとの協議</li> </ul>
9.9	◎盛岡市保育所協議会研修班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義「保育現場における特別な配慮を必要とする子ども理解と対応」</li> </ul>
9.21	○総合教育センター研修講座（教育相談）感情コントロールの力を育てる教師の関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義「感情コントロール力はどうに育つのか」</li> <li>・講義と演習「感情コントロールが難しい児童・生徒への対応」</li> </ul>
9.29	○盛岡市保育所協議会研修班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義「保育施設・家庭でできる感染症予防と対策」</li> </ul>
10.18	○保育者レベルアップ研修講座ステップ2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義と演習「幼児教育に基づく指導計画」</li> <li>・講義と演習「学びの芽生えにつながる遊びの充実」</li> </ul>
10.21	□東北地区国語教育研究協議会 岩手大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白梅幼稚園保育参観、城南小学校授業参観</li> <li>・分科会「幼小の関連を考慮し、言葉の学習はどうあればよいか」</li> </ul>
10.21	○都南幼稚園公開保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開保育「遊びの中の学びを探る」</li> <li>・研究発表と協議</li> </ul>
10.28	○公開保育 なかのこども園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開保育「子ども達の主体的な遊びを生み出す保育を目指して」</li> </ul>
11.8～ 11.10	○幼稚園等初任者研修講座センター研修Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義と演習「指導要録の概要・記載の実際」</li> <li>・研究協議「幼児理解と指導支援の視点～保育参観に向けて～」</li> </ul>
11.22	○第3回岩手県幼児教育推進連携会議WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討「いわて就学前教育振興プログラム」（改定案）について</li> </ul>
11.29	○盛岡市医師会 母子保健講演会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演「愛着障害とは？～発達障害との違い、関係～」</li> </ul>
11.29	○保育所協議会 公開保育 幼保連携型認定こども園青空こども園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Zoomにて公開「みんなでつくろう！おみせやさんごっこ」</li> </ul>
12.16	□岩手県幼児教育フォーラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明「本県の就学前教育推進体制について」</li> <li>・講演「幼保小の架け橋プログラムが目指すもの」</li> </ul>

1.12～ 1.13	○県私立幼稚園・認定こども園連合会 総合研修会	・講演「3歳児からの幼児教育につながる0・1・2歳児の育ち」 ・講演「食育」「障がい児保育」「マネジメント」 ・講演「少子化時代の園運営のあり方」等
1.25	○集団給食施設衛生講習会	・講演「食中毒について」 ・講演「大量調理施設衛生管理マニュアルについて」
2.8	◎盛岡市障がい児教育推進協議会	・実践発表 盛岡市立好摩小学校 ・講演「教育と療育の連携」
3.24	○第38回岩手県私立幼稚園・認定こども園教員研修大会	・講演「「遊びの中の学びをどう読み取り、援助につなげるか」・分科会
*	○盛岡地区教員研修会 月1回	・班ごとのテーマ「子どもの心を聴く」 「3歳未満児の生活と保育環境」

## 7、情報の発信の状況（公表・公開）

(1) 園報の発行：年4回発行。発行部数240部。法人及び園内情報。  
送付先は、保護者（110部）、同窓生、関係機関他（130部）

### (2) その他の情報発信

幼稚園便り(全世帯)：12回（毎月1回発行）、臨時便（コロナウイルス感染防止含む）  
保育部便り(0・1・2歳児世帯)：12回（毎月1回発行） 臨時便5回  
学年便り：年長児クラス18回、年中児クラス15回、年少児クラス14回  
給食便り(毎月)、ほけん便り：年9回  
県PTA連合会会報：2回、PTAしんぶん：12回、あんふあん：12回

### (3) インターネット・ホームページ：幼稚園の沿革及び業務内容の紹介。

園児活動状況の随時紹介 Web お便り 20回、にこにこ園日記 20回発行は好評。  
また、業務執行・年度状況の報告（財務状況を含む）を公表。  
創立115周年記念でホームページリニューアル。アドレス：<https://1907-mkg.com>

(4) おがスマ配信（20回）10月以降、主にコロナ関係及び感染性胃腸炎情報を配信した。  
保護者スマホ緊急情報連絡用として、おがスマアプリをダウンロードして頂き利用。

### Ⅲ 学校評価について

平成 19 年 6 月に学校教育法、同年 10 月に学校教育法施行規則の改正により、自己評価・学校関係者評価の実施・公表に関する規定が新たに設けられました。当園では、教職員による業務の自己点検・自己評価は、平成 20 年度から実施しております。

また平成 27 年度の新制度施行によって、当園は幼保連携単一施設となり、従来の幼稚園のみに設置されていた『学校関係者評価委員会』、及び保育園にのみ設置されていた『苦情解決第三者委員会』を、単一施設として両委員会を設置し、学校関係者評価委員会及び苦情解決第三者委員会を合同で報告会を開催し、本園の運営並びに経過について評価を頂き今後の運営に資することにしております。

#### 1、令和 4 年度 盛岡幼稚園 教職員自己評価集計と分析

- (1) 調査期間 令和 4 年 11 月 28 日～12 月 12 日
- (2) ねらい ○職員一人一人が自分の教育・保育活動を振り返り、評価し、課題を把握する。  
○令和 5 年度の計画立案のための資料とする。
- (3) 評価基準
- 4 よくできている。自分は取り組み満足している  
3 できている 2 どちらかといえばできていない  
1 まったくできていない

#### (4) 集計結果

項目	番号	設 問	保育部		幼稚園部		合計	
			計	平均	計	平均	計	平均
1 職員 意思 疎通 及び 職員 資質 向上	1	職員全員による話し合いを定期的に行っている	40	3.3	44	3.1	84	3.2
	2	非常勤職員にも日々の保育に必要な情報が伝えられている	42	3.5	47	3.4	89	3.4
	3	共有された情報は適切に記録保存されている	43	3.6	48	3.4	91	3.5
	4	職員会議に参加できない職員には、会議の様子が伝えられている	39	3.3	47	3.4	86	3.3
	5	職員の引継ぎを適切に行っている	42	3.5	46	3.3	88	3.4
	6	職員が抱えている課題を主幹や指導教諭に伝えている	40	3.3	45	3.2	85	3.3
	7	職員の課題に対して、指導助言を行う仕組みがある	40	3.3	46	3.3	86	3.3
	8	指導助言で得られた解決策を日々の保育にいかそうとしている	39	3.3	48	3.4	87	3.3
	9	保育部・幼稚園部・家庭部との連携に努めている。	34	2.8	43	3.1	77	3
	10	各種研修会や研究会に積極的に参加し、資質向上に努めている	37	3.1	45	3.2	82	3.2
	11	自己研鑽に努めている	35	2.9	43	3.1	78	3
	12	研修で学んだことを実践にいかそうとしている	41	3.4	48	3.4	89	3.4

	13	園内研修の企画や実施に対する評価	39	3.3	48	3.4	87	3.3
	計		511	3.3	598	3.3	1109	3.3
2 教育 保育 課程・ 指導 計画	14	保育課程のねらいや内容は、発達や年齢、個人差を踏まえた内容になるよう工夫している	41	3.4	45	3.2	86	3.3
	15	保育課程は地域の特性や学園の特色を生かしたものになっている	41	3.4	49	3.5	90	3.5
	16	日々の教育保育活動を10の姿を意識して行っている	34	2.8	47	3.4	81	3.1
	17	指導実施評価は毎月定期的に行っている	40	3.3	45	3.2	85	3.3
	18	指導計画の評価や立案はクラス職員で話し合いながら行っている	37	3.1	43	3.1	80	3.1
	19	指導計画の評価は次の計画作成にいかしている	40	3.3	45	3.2	85	3.3
	計		233	3.2	274	3.3	507	3.3
3 子供 受容 理解	20	子どもの要求などに対して適切に対応している	42	3.5	48	3.4	90	3.5
	21	表現する力が十分でない子供の気持ちを受け止め、どのように言葉で表したらよいか適切に対応している。	38	3.2	48	3.4	86	3.3
	22	多様な子どもの興味に合わせ、遊びの素材や環境を工夫している	40	3.3	47	3.4	87	3.3
	23	配慮を要する子に対する指導が職員間で共有されている	38	3.2	47	3.4	85	3.3
	24	0歳から5歳までの子どもの発達の理解に努めている	37	3.1	47	3.4	84	3.2
	25	園報や他のクラス便り・Webにも目を通し、実践にいかしている	43	3.6	46	3.3	89	3.4
	計		238	3.3	283	3.4	521	3.3
4 健康 状態 把握 及び 健康 診断	26	子どもの健康管理に関するマニュアルがある	42	3.5	49	3.5	91	3.5
	27	既往症や予防接種の状況について、保護者から必要な情報が得られるようにしている	41	3.4	51	3.6	92	3.5
	28	感染症等の予防に努めている	43	3.6	53	3.8	96	3.7
	29	子どもの健康状態に関する情報が関係職員に周知されている	43	3.6	49	3.5	92	3.5
	30	子どもの体調悪化・けがなどについて保護者に伝えている	44	3.7	54	3.9	98	3.8
	31	子どもの健康診断の結果は全職員に周知されている	38	3.2	44	3.1	82	3.2
	32	子どもの健康診断の結果は保育内容に反映されている	39	3.3	46	3.3	85	3.3
	33	子どもの健康診断の結果は保護者に伝えられている	46	3.8	52	3.7	98	3.8
計		336	3.5	398	3.6	734	3.5	
5 食事 環境 ・ 食育 推進	34	子どもが落ち着いて楽しく食事ができるよう環境を工夫している	45	3.8	46	3.3	91	3.5
	35	発達に合わせた食事の援助を適切に行うよう配慮している	43	3.6	47	3.4	90	3.5
	36	食べられるものが少しでも多くなるように援助している	42	3.5	49	3.5	91	3.5
	37	職員は子どもの食べる量や好き嫌いを把握している	42	3.5	48	3.4	90	3.5
	38	食育計画を策定している	40	3.3	47	3.4	87	3.3
	39	感謝の気持ちや命を大切にすることを育むよう働きかけている	41	3.4	51	3.6	92	3.5
	40	給食について定期的に職員間で情報交換をしている	40	3.3	49	3.5	89	3.4

	41	試食会を設け、栄養、味付、食べ方等の配慮内容を伝えている							
	計		293	3.5	337	3.4	630	3.5	
6 環境 整備	42	室内の温度、湿度、換気、採光などの環境は適切な状態に保持されている	44	3.7	51	3.6	95	3.7	
	43	園庭の遊具等の安全管理点検が行われている	44	3.7	52	3.7	96	3.7	
	44	季節の移り変わりが感じられるような環境構成に工夫している	45	3.8	49	3.5	94	3.6	
	計		133	3.7	152	3.6	285	3.7	
	7 保育 活動 ・ 人間 関係	45	園訓である「常に喜ぶべし」を念頭に入れ保育活動をしている	41	3.4	49	3.5	90	3.5
	46	型にはめない個性の伸長に努めるよう配慮している	42	3.5	48	3.4	90	3.5	
	47	順番を守る等、社会的ルールを身につけるよう配慮している	45	3.8	50	3.6	95	3.7	
	48	生活や遊びを通して、数や量の感覚が身につくよう工夫している	43	3.6	49	3.5	92	3.5	
	49	クレヨン、粘土、紙などを使った活動を取り入れている	44	3.7	52	3.7	96	3.7	
	50	絵本の読み聞かせ、お話し、紙芝居などを保育に取り入れている	46	3.8	53	3.8	99	3.8	
	51	教具・教材の有効活用に努めている	43	3.6	51	3.6	94	3.6	
	52	屋外での活動の場が確保され活用している	42	3.5	49	3.5	91	3.5	
	53	子ども同士の関係をよりよくするような言葉がけを行っている	43	3.6	48	3.4	91	3.5	
	54	子どもが自分の気持ちを安心して表すことができるよう働きかけている	46	3.8	48	3.4	94	3.6	
	55	発達段階に応じてやる気を育てるような働きかけをしている	43	3.6	47	3.4	90	3.5	
	56	異年齢の子ども同士が遊べるよう配慮している	37	3.1	44	3.1	81	3.1	
	57	こども園として0歳～5歳児の保育活動の交流に配慮している	36	3	42	3	78	3	
	58	諸行事の計画・実施・反省が適切に行われている。	40	3.3	47	3.4	87	3.3	
	59	諸行事の記録が適切に保存されている。	41	3.4	47	3.4	88	3.4	
	計		632	3.5	724	3.4	1356	3.5	
8 学校 関係 者評 価 及び 保護 者との 連携	60	苦情処理を適切に行っている	38	3.2	47	3.4	85	3.3	
	61	学校関係者評価委員会や苦情処理第三者委員会が開催されている	41	3.4	51	3.6	92	3.5	
	62	送迎時の会話や連絡帳を活用して子どもの様子を伝えている	44	3.7	51	3.6	95	3.7	
	63	保育参観を行うなどで保護者と共通理解を得る機会を設けている	43	3.6	49	3.5	92	3.5	
	64	保護者の相談に真摯に対応するよう努めている	40	3.3	49	3.5	89	3.4	
	65	保護者の相談内容を記録し、保育活動で配慮できることは他の職員にも伝えている	40	3.3	50	3.6	90	3.5	
	66	園やクラス便り・Webを定期的に発行し、情報を伝えている	43	3.6	51	3.6	94	3.6	
	67	保護者アンケートを実施し保護者の思いやニーズを把握している	37	3.1	43	3.1	80	3.1	
	68	保護者から寄せられた意見を保育活動に活かそうとしている	41	3.4	47	3.4	88	3.4	
	69	入所児童又は家族の秘密を他人に漏らしていないか	46	3.8	55	3.9	101	3.9	
		計		413	3.4	493	3.5	906	3.5

9 事故 対応 ・ 危機 管理 ・ 服務	70	子どもの心身の状態を観察し、虐待等不適切な養育が行われていないか気を付けている	43	3.6	51	3.6	94	3.6
	71	事故や天災等が発生したときの対処方法などマニュアルがある	45	3.8	54	3.9	99	3.8
	72	職員は救急救命法についての研修を受講している	37	3.1	44	3.1	81	3.1
	73	避難訓練を定期的実施している	47	3.9	55	3.9	102	3.9
	74	不審者等侵入防止策(出入り口、通報システム)が講じられている	44	3.7	50	3.6	94	3.6
	75	ヒヤリハット事例を蓄積し、事故を未然に防ぐために活かそうとしている	42	3.5	46	3.3	88	3.4
	76	ゆとりを持って勤務時間に遅れないように努めている	41	3.4	47	3.4	88	3.4
	77	土曜日出勤の振替休日が取得できる	45	3.8	53	3.8	98	3.8
	78	年次有給休暇が取得できる	43	3.6	50	3.6	93	3.6
	計		387	3.6	450	3.6	837	3.6
10 園の 取組	79	子育て支援事業の取り組みに対して(トトロハウス等)	40	3.3	50	3.6	90	3.5
	80	英語やダンスで遊ぼうの取り組みに対して	39	3.3	51	3.6	90	3.5
	計		79	3.3	101	3.6	180	3.5
全項目の合計と平均			3255	3.4	3810	3.4	7065	3.4
			保育部		幼稚園・家庭部		全体	

上記設問以外に記述式設問

「あなたは職場で一番苦勞していることはどんなことですか」に対して

- 保育部 : ・ケガ、事故が起こった時の判断対応、 ・日々の保育活動の充実を図ること、  
 ・ケガや事故につながらないように1歳児に言葉で伝えることの難しさ  
 幼稚園部 : ・保護者支援、 ・気になる子どもへの指導と周りの子ども達への配慮の仕方  
 ・日誌などの記録、 ・保育室の環境整備

## (5) 分析内容

- 職員 26 人による 79 の評価項目の平均は 3.4 であった。保育部 (12 人) が平均 3.4、幼稚園・家庭部(14 人) が平均 3.4 で、保育部と幼稚園部との評価の差はなかった。全体の平均が 3.4 の値は、職員が運営方針を理解し、意欲的に取り組み、「自分たちとしては取り組みに満足している」と判断できる。
- 大項目 1 の「職員の意思疎通及び職員の資質向上」は平均が 3.3 で大きな課題はないが、小項目の 9 番「保育部・幼稚園部・家庭部との連携に努めている」が全体平均 3.0 で、保育部が 2.8 であった。11 番「自己研鑽に努めている」は全体が 3 で、保育部が 2.9 であった。
- 大項目 2 の「教育保育課程及び指導計画」の平均が 3.3 で大きな課題はない。16 番「日々の教育保育活動に 10 の姿を意識して行っている」が保育部は 2.8 であった。幼稚園部は 3.4 で保育部との差がみられた。
- 大項目 3 の「子供受容理解」は平均が 3.3 で大きな課題はないが、24 番の「0 歳から 5 歳までの子どもの発達の理解」が保育部 3.1 で幼稚園部との差がみられた。
- 大項目 4 の「健康面について」は平均が 3.5、大項目 5 の「食事環境や食育」は平均が 3.5、大項目 6 の「環境整備」3.7 で、これらは小項目も含めてともに高い評価を得て大きな課題は見られない。
- 大項目 7 の「保育活動・人間関係」は平均が 3.5 で大きな課題はないが、小項目 57 の「こども園として

0歳児から5歳児の保育活動の交流に配慮している」が平均3で、24番と共に今後も意識して取り組まなければならない。

○大項目8の「保護者との連携」は平均3.5であった。保護者アンケートについては今年度は予定していない。

○大項目9の「事故対応・危機管理・サービス」については平均が3.6で大きな課題はない。小項目78番の「年次有給休暇が取得できる」は働き方改革で求められている内容である。平均が3.6であった。

## (6) まとめ

○全職員の評価項目の平均は3.4であった。このことは、職員が運営方針を理解し、積極的に取り組み、「自分たちとしては取り組みに満足している」と判断できる。

○大項目の「健康状態把握」や「食事環境・食育」、「環境整備」は、小項目を含め職員が積極的に取り組んでいると評価できる。特に感染症予防対応では職員には取り組んでいただいた。

○課題としては、保育部・幼稚部・家庭部との一層の連携を図り、0歳児からの発達理解に努め、保育課程や指導計画の見直し等に努める必要がある。このことは、今年度の重点目標の一つであったが今後も継続する必要がある。保育部では10の姿を意識した保育活動の取り組みも必要である。

○保護者連携では、職員は送迎時や連絡帳を活用して子供の様子について伝えている。

昨年の保護者アンケートでもそのことが保護者から好評価を受けていた。

今年度はおがスマの導入やホームページの更新などを行い、保護者との連携に努めている。

○今年度の重点目標であった働き方改革に関連して、土曜出勤の振替休日、年次有給休暇の取得等では職員が協力して取得しやすい雰囲気づくりに努めていただいた。

○自由記述の「職務で一番苦勞していること」は職員個々によって異なるが、日常の職員間で工夫していることや配慮していることなどを話題にして改善を加えていくことも必要である。そのことが、自己研鑽にもつながることである。

## 2、学校関係者評価委員会 苦情解決第三者委員会報告内容

○ 期 日： 3月17日(金) 午後4時～ 幼稚園ホール

### ○ 出席者

「学校関係者評価委員」「苦情解決第三者委員会」

保護者代表 赤石 愛(ふたば会会長) 沼田 崇子

月花 恵梨香(未満児) 田村 幹雄

学校評議員代表 高屋 一成 宮手 義和

学識経験者代表 高橋 眞司

地域住民代表 佐藤 彰二 黒澤 淳子

「内丸学園盛岡幼稚園」

理 事 長 坂本 洋 園 長 坂本 信行

主幹保育教諭 吉田 房子 指導保育教諭 高村 和江

### ○ 会議次第内容

開 会

1, 委員会の紹介

2, 理事長挨拶

### 3, 報告と協議

#### ◎ 令和4年度の業務執行報告

- ・ 令和4年度運営方針  
運営の反省（成果と課題）
- ・ 盛岡幼稚園創立115周年記念事業の概要報告
- ・ 事業報告
- ・ 特色ある幼児教育振興事業について
- ・ 園内研修実施報告
- ・ 園外研修参加実施状況
- ・ 園からの情報発信
- ・ 子育て相談集計結果　まとめと考察
- ・ 事故及びヒヤリハットの集計結果・考察
- ・ 自己評価の集計と分析・まとめ
- ・ 令和5年度盛岡幼稚園運営方針
- ・ 令和5年度学級編成及び園児数について

### 4, 子ども達の園での遊びや活動の様子をまとめたDVDを視聴

### 5, 各委員からの感想評価

- ・ コロナに加えて感染症（ノロウイルス感染症）もあり、職員は対応が大変だったと思うが、子ども達は健やかに育っていることを感じた。
- ・ 創立115周年という節目に子どもが在園していることに感激をしている。
- ・ 子どもは先生が大好きで先生に会いに幼稚園に通っていると感じている。
- ・ コロナ等いろいろな制限がある中で様々な行事をしてくれたことがとてもありがたいと感じている。
- ・ コロナ感染症とノロウイルス感染症への対応は違い、現場では対応が難しかったと思うが収束できよかった。公衆衛生上大変だと思うが今後も頑張ってもらいたい。
- ・ 今年は雪が多かったので除雪もうまくいってないところもあった。保護者も危険がないよう見守ってほしい。
- ・ 娘3人を卒園させているが、乳幼児期に自己肯定感をもつことが大事だと思った。
- ・ 幼稚園部保育部家庭部との交流が反省課題となっているが、コロナ禍だったので制限したと思われる。収束した後、いい面での交流を図り以前に戻していくといいのではないかな。
- ・ 苦情処理は適切に行われているようだが、今後も保護者の意見や要望はアンテナをはって取り入れてほしい。
- ・ 日頃の苦勞に感謝している。
- ・ 自己評価に関しては低い項目もあるがそれは重点項目に対する理解が職員に周知していないところもあるのではないかな。また、項目によって開きがあるところを今後は探っていくことが必要と思われる。
- ・ 基本的な生活習慣については親子共々できていなければならない。

Q 講師を招いて公開保育をみての指導を受けた、とあるが詳しく聞きたい

A いわて幼児教育センター訪問支援事業として幼児専門員に当園の公開保育をみていただき保育者の援助について具体的な助言を頂いた。今年度の研究テーマである「ことばの育ち」につながる指導についても助言をいただく。

#### IV 財務の内容（令和4年度）

##### 1、資金収支計算書

収入の部		
科 目	令和3年度	令和4年度
学生生徒等納付金収入	12,375,927円	12,955,419円
手数料・寄付金収入	268,095〃	250,281〃
補助金収入	139,387,670〃	139,973,140〃
付随事業・収益事業収入	4,428,157〃	4,656,801〃
受取利息・配当金収入	493,619〃	3,267,396〃
雑収入	2,204,670〃	5,258,120〃
その他収入(前受、未収金・預り金)	88,723,211〃	131,533,513〃
資金収入調整勘定	△10,774,720〃	△7,670,910〃
前年度繰越支払資金	55,673,828〃	40,146,560〃
<b>収入の部合計</b>	<b>292,780,457円</b>	<b>330,370,320円</b>
支出の部		
人件費支出	132,758,512円	137,180,542円
教育管理経費支出	30,168,873〃	29,235,342〃
借入金等返済・利息支出	0〃	0〃
施設・設備関係支出	3,933,307〃	40,516,178〃
その他支出(資産運用・預り金・前払)	89,623,545〃	86,689,886〃
資金支出調整勘定	△3,850,340〃	△671,620〃
翌年度繰越支払資金	40,146,560〃	37,419,992〃
<b>支出の部合計</b>	<b>292,780,457円</b>	<b>330,370,320円</b>

##### 2、貸借対照表

資産の部		
固定資産	409,649,349円	406,800,546円
流動資産	51,357,560〃	45,329,072円
<b>資産の部合計</b>	<b>461,006,909円</b>	<b>452,129,618円</b>
負債の部		
固定負債	8,036,260円	7,698,540円
流動負債	1,078,201〃	1,245,290円
<b>負債の部合計</b>	<b>9,114,461円</b>	<b>8,943,830円</b>
純資産の部		
<b>基本金の部合計</b>	<b>290,838,343円</b>	<b>331,334,746円</b>
繰越収支差額		
翌年度繰越収支差額	161,054,105円	111,851,042円
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>461,006,909円</b>	<b>452,129,618円</b>

【注】 ・重要な会計方針の変更、該当事項なし。 ・減価償却額の累計額の合計 :160,304,898円  
 ・創立115周年記念事業を行った。